



千代田国際語学院  
私にとって友愛とは

2025年6月

公益財団法人 友 愛 編

千代田国際語学院「友愛講演会」奨学金対象感想文  
私にとって友愛とは 2025年6月

∞ ∞ ∞ 目 次 ∞ ∞ ∞

感 想 文	友愛賞	于 英哲	.....	1
	友愛賞	管 越	.....	3
入 選	黄 烨轩	.....	5	
入 選	薛 佳琪	.....	7	
入 選	セク・オウセイノウ	.....	9	
参 加	吳 澤宇	.....	11	
参 加	張 開悅	.....	12	
参 加	邹 致远	.....	13	
参 加	张 思衡	.....	15	

# 小論文コンテスト「私にとって友愛とは」2024年度

於：千代田国際語学院／暨南大学日本学院 池袋キャンパス

2025年2月15日



## 差異の彼方に咲く友愛の花

于 英哲

「友愛」とは、単なる親しみを超えた、異質な存在への深い理解と共感に根差す絆である。この価値観を考える時、隣国でありながら文化や歴史的経緯が異なる中国と日本の交流史は、差異を超えた友愛の可能性を鮮やかに示す。本稿では、両国の相互支援の実例を手掛かりに、眞の友愛の本質を探る。

中日両国は、儒教の「仁」と日本の「和」という異なる倫理観を育んできた。中国の「四海之内皆兄弟也」という思想が示す普遍的な友愛に対し、日本では「縁」の概念が特定の関係性を重視する。このような文化的差異を背景としながらも、両国民が危機に直面した際に見せた相互支援は、文化の壁を超える人間性の輝きを証明している。

2008 年の四川大地震では、日本政府が国際緊急援助隊を派遣し、がれきの下から生存者を救出する姿が現地で報じられた。医療チームが現地語を必死に習得しながら治療にあたる姿は、言葉の壁を越えた人間同士の共感を物語る。また 2020 年の新型コロナ禍では、日本から送られた「山川異域 風月同天」の漢詩が中国社会に深い感動を与えた。この言葉が持つ歴史的文脈——唐代の鑑真和尚を招請した経緯——を知る者ほど、単なる標語を超えた文化的共鳴を感じずにはいられない。

これらの事例が示唆するのは、友愛の本質が「差異の否定」ではなく「差異を前提とした共感」にあるという真理だ。2011 年の東日本大震災では、中国から 10 億円以上の義捐金が寄せられ、救援物資を満載した飛行機が相次いで到着した。当時現地入りした中国人ボランティアが「過去のしこりより今の命が大切」と語った言葉は、歴史の重荷を背負いながらも眼前の人間に手を差し伸べる友愛の真髄を体現している。

現代社会が分断と対立に揺れる今こそ、中日交流史が教える友愛の真実に学ぶ必要がある。それは単なる情緒的な親近感ではなく、異質な他者への知的関心と想像力に支えられた、覚悟ある連帯である。文化の差異を架橋する友愛の実践が、私たちに眞の共生社会への道筋を示してくれるだろう。

日本文化の友愛は「空気を読む」という暗黙の了解に支えられている。京都の老舗旅館で見た女将の振る舞いは芸術の域に達していた。客の好みを言葉にされずとも見抜き、さりげない気遣いで応える。対して中国の友情は「肝胆相照らす」という激しい情熱を特徴とする。旧友同士の再会は、抱き合って泣き、肩を叩き合い、酒を酌み交わす熱気に満ちていた。

差異を超克する鍵は、自文化のプリズムを通した他者理解を脱することにある。現代の会話で、日本側の「以心伝心」と中国側の「打開天窗説亮話」(率直に話す)が衝突する場面は少なくない。そんな時こそ、文化の深層にある共通価値を見出す努力が求められる。

友愛の真髄は差異の溶解ではなく、差異を生かした共創にある。長崎の孔子廟で出会った中日混血の書家が語った言葉が忘れられない。「墨の濃淡が織りなす調和のように、文化の差異は新たな美を生む」。この言葉は、唐代の遣唐使がもたらした文化融合の歴史や、魯迅と内山完造の交友を現代に継ぐものだ。SNS時代の私たちは、画一的な理解を強いるのではなく、異質性を響き合わせる交響曲のような関係を築くべきである。



## 共鳴する心：友愛が生む小さな奇跡

管 越

人は誰しも、孤独を感じる瞬間がある。日々の忙しさや環境の変化、人との価値観の違いに直面したとき、ふと「自分は本当に受け入れられているのだろうか」と不安になることがある。しかしそんなときこそ、一つの温かい言葉、あるいはさりげない優しさが、人の心を救うこともある。

ある日、私は駅のベンチに座っていた。一人のお年寄りの男性が隣に座り、ため息をついた。何か悩みがあるのだろうかと思い、私はそっと「寒いですね」と声をかけた。彼は驚いたように私を見つめたが、やがてゆっくりと微笑み、「本当に寒いね。でも、誰かと話すと少し暖かくなるね」と言った。

その瞬間、私は気づいた。人は誰かに受け入れられることで、心が温まるのだと。友愛とは、決して大げさな行為ではなく、ほんの小さな共鳴から生まれるのではないかと。

私は以前、すき焼きのお店で食事をしていたときのことを思い出した。慣れない手つきで生卵を割ろうとしたとき、うっかり手を滑らせてしまい、卵が床に落ちてしまった。店内は静かで、周囲の視線が一瞬こちらに向いたように感じ、私は恥ずかしさと焦りで動けなくなってしまった。そのとき、隣の席の人があわてて紙ナプキンを差し出し、「大丈夫ですか？」と声をかけてくれた。

たったそれだけのことだったが、私は一気に気持ちが楽になり、同時に気づいた。自分が周囲の反応を恐れ、失敗を恥じていたのは、他人の目を必要以上に気にしすぎていたからだ。そして、周囲の人々もまた、私が思っていたよりずっと優しかったのだ。

このように、友愛とは特別なものではなく、日常の何気ない瞬間に存在しているのである。しかし、私たちは時に「他人に迷惑をかけないこと」ばかりを意識し、「自分のことは自分で」と、周囲との関わりを避けてしまうことがある。確かに、個人の自由を尊重する

ことは大切だが、それが「他者と関わらない」という形で表れるならば、それは単なる冷たさになってしまいのではなかろうか。もし、すき焼き店で卵を落としたとき、誰も私に声をかけていなかったら、私はきっとその場でさらに萎縮し、「恥ずかしいからもうこんなことをしないようにしよう」と、自分の行動をどんどん制限してしまったかもしれない。でも、あの時の小さな優しさがあったからこそ、私は安心し、また気軽に新しいことに挑戦できるようになった。

人は社会の中で生きている。誰もがそれぞれの事情を抱え、自分のことで精一杯かもしれない。それでも、少し勇気を出して、周囲の人に温かい言葉をかけたり、小さな手助けをしたりすることで、世界はもっと優しく、居心地の良い場所になる。

逆に、「人のことに関わらないほうがいい」と考え、すべての交流を避けるようになれば、自分自身の世界もどんどん狭くなってしまう。他人と関わることを恐れるあまり、自ら心を閉ざしてしまうと、気づけば孤独に包まれ、周囲の優しさに気づく機会すら失ってしまうのだ。

私たちは、他者と異なる価値観を持ち、異なる人生を歩んでいる。しかし、それでも心が共鳴する瞬間がある。その瞬間を大切にし、互いに寄り添いながら生きていくことができれば、この世界はもっと温かく、色彩豊かなものになるのではなかろうか。

友愛とは、共鳴する心の中に生まれる。そして、私たちが勇気を出して手を差し伸べることで、その輪はさらに広がっていくのだ。



## 「私にとっての友愛」

黄 烁軒

2025年2月15日、公益財団法人『友愛』（代表：鳩山由紀夫元内閣総理大臣）のユニオンメンバーである日本人の大学生・大学院生・社会人と、千代田国際語学院の学生約30名が参加する多文化交流会が開催され、千代田の学生として私も參加した。

当日は鳩山由紀夫理事長から『友愛』の理念や活動についてお話をいただき、その姿は非常に親しみやすく、謙虚でありながら、国境やアイデンティティを超えた友情の精神を感じられた。優しい言葉のひとつひとつが大きな励ましとなり、「友愛」に対する理解と共感がより深まった。

この交流を通して私は、「友愛」とは相互尊重・相互理解・相互支援であると学んだ。これは鳩山一郎氏が掲げた理念でもある。相互の敬意と理解、そして支え合いがあるからこそ、世界中の人々が団結し、よりよい未来を共に築くことができるのだと感じた。

今回の交流会では、若くて優秀なユニオンメンバーたちが私たちと直接向き合い、自由で楽しい会話ができたことで、心の距離が一気に縮まった。会場全体に友情と愛があふれる雰囲気が広がっていた。「友愛とは何か?」と考えたとき、今まで多くの人に温かく助けてもらった経験が思い出された。

例えば、日本に来て2日目、学校でオリエンテーションがあった日。新しい住まいが学校の近くだったため自転車で向かったが、場所が分からず困っていた。私は通りかかった日本人の女性に尋ねた。下手な日本語にもかかわらず、その女性は私の話を丁寧に聞き、理解しようしてくれた。そして、わざわざ学校の正門まで一緒に歩いて案内してくださった。彼女の優しい姿は、今でも私の心中に残っている。国境を越えた友情と愛を感じた瞬間だった。

また、日本での生活の中で、小さな感動にたくさん出会った。例えば、近所にはたくさん緑があり、たとえ小さなスペースであっても植木鉢が置かれ、命が息づく風景がある。どの家も清潔で、他人に迷惑

をかけず、通行人にも温かい気持ちを与えてくれる。これもまた、一つの友情の形なのだと感じた。

ある日、バスに乗って帰宅中、体に不自由のある若者が乗ってきた。そのとき運転手はバスを降りてスロープを下ろし、車椅子を丁寧にバスに乗せ、安全のためのシートベルトを装着させた。降りるときも同じように、慎重にサポートしていた。このような優しさと配慮は、日本では当たり前かもしれないが、私たち外国人にとっては、人と人とが平和な社会の中で助け合う姿に映る。

つまり、弱者を思いやり、互いに支え合う心があり、それこそが「友愛」と「人間愛」に満ちた社会なのだと思う。

日常の中には、多くの「友愛」の感情や出来事がある。ただ感じるだけではなく、自らが行動し、周囲の人々にその思いを伝えていくことが大切だ。この交流会を通じて、私は「友愛のメッセンジャー」になりたいという思いを強くした。これからも、私の周りの人々に「友愛」の心を伝えていきたいと思っている。



## 友愛の精神：小さな命から広がる愛

薛 佳琪

私たちが生活するこの世界は、多様な文化や価値観が共存する場です。その中で、人々が互いを尊重し、助け合うことができれば、より平和で豊かな社会が築かれるでしょう。この「友愛」の精神は、単に人ととの関係にとどまらず、私たちの身近にいる小さな命、例えば猫や、他のペットへの愛情からも学ぶことができます。

私はかつて、一匹の子猫を迎え入れましたことがあります。新しい環境に戸惑い、隅っこで小さく丸まっていたその子に、私はそっとエサを置きました。最初は警戒していた彼も、次第に心を開き、数週間後には私の足元にすり寄るようになりました。その時、私は気づきました。「ああ、この子はただ怖かっただけなんだ」と。誰かに拒されることを恐れ、距離を置いていたのは彼だけではなく、私自身も同じだったのかもしれません。

猫は世界中で愛されている動物です。その品種や出自に関係なく、多くの人が彼らに対して無条件の愛情を注ぎます。お腹が空いていれば食べ物を与え、寒い日には温かい寝床を提供し、時には言葉を持たない彼らの小さな仕草に心を癒されることもあります。このように、私たちは猫やペットに対して、偏見を持たず、ただ彼らの存在そのものを受け入れ、愛することができます。

では、なぜ私たちは人に対しても同じように無条件の愛を持てないのでしょうか？

人間関係の中では、私たちはしばしば相手の出身、過去の経験、価値観の違いによって無意識に距離を置いたり、偏見を抱いたりすることがあります。しかし、もし私たちが猫を愛するように、人間にももっと寛容で、ありのままを受け入れる心を持てたらどうでしょうか。どんな国籍の人であっても、どんな背景を持っていても、その人が存在するだけで尊重され、愛される価値があるのではないかでしょうか。

私の友人に、かつて自分の生い立ちを恥じていた人がいました。彼は家庭環境が複雑で、自分には愛される価値がないと思い込んでいま

した。しかし、ある日、彼は一匹の捨て猫を拾いました。毎日世話をし、名前を呼ぶうちに、その猫が彼を信頼し、甘えるようになりました。「この子は私の過去なんて知らない。ただ私がここにいるから、安心してくれるんだ。」そう気づいたとき、彼は初めて自分自身のことも受け入れられるようになったそうです。

そして、他者を受け入れるためには、まず自分自身を受け入れることが大切です。私たちは時に、自分の生き立ちや過去の選択、価値観に自信を持てず、自分自身を否定してしまうことがあります。しかし、猫が自分の生まれを気にせず、ただ自然体で生きるように、私たちもまた自分自身を肯定し、愛することができるはずです。自分を受け入れることで、初めて他者にも同じ優しさを向けることができるのです。

世界にはさまざまな人がいて、それぞれの人生があります。ある人は順風満帆に見えるかもしれません、実は大きな悩みを抱えているかもしれません。ある人は価値観が違うように思っても、実は深いところで共感できる部分があるかもしれません。もし私たちが、猫を撫でるように優しい心で人と接することができたなら、世界はもっと温かく、居心地の良い場所になるでしょう。

私たちが猫に対して持つ無条件の愛、それは決して特別なものではなく、誰もが持つことのできる心の在り方です。その愛を人間関係にも広げることで、互いに支え合い、思いやりに満ちた社会を築くことができるのではないでしょうか。

私たち一人ひとりが、まず自分を受け入れ、そして他者にも優しさを持って接することで、友愛の輪は広がります。猫が私たちに安らぎを与えてくれるように、私たちもまた誰かの心を温められる存在になれるのです。



## 真の友愛とは

セク・オウセイノウ

こんにちは、みなさん。お元気ですか？私の名前はセク・オウセイノウです。セネガルからきました。

初めて誰かに会ったとき、多くの人が最初に尋ねるのは「どこの國の人ですか？」という質問です。でも、もしその人に本当に知りたいのであれば、最初に聞くべきことは「名前」ではないでしょうか。名前を聞くことで、「この人は私のことを一人の人間として見てている」と感じることができます。しかし、最初に国籍を聞かれると、「この人は表面的にしか私のことを見ていないのでかもしれない」と感じてしまうのです。

先月、友達の彼女と遊びに行ったとき、彼女がこう言いました。「セク、ちょっと言いたいことがあるの」「何？」と聞くと、「今日、彼氏と別ようと思うの」と言われました。「えっ！？なんでそんなこと言うの？」と驚くと、「最近、関係がうまくいっていないし、あと 2 ヶ月で私は国に帰るから」と答えました。「でも彼氏は中国人だから、また会えるんじゃない？」と言ったのですが、彼女は「遠距離恋愛は難しいし、それに…人生は結局、一人で生きるものだから」と言いました。

「人生は一人で生きるもの」——なんだか寂しい言葉に聞こえませんか？

私の国、セネガルは昔、たくさんの部族に分かれていました。ワロ族、ジョロフ族、ウォロフ族など。私はレブ族で、海と漁業を大切にする文化を持っています。部族は「言葉」「文化」「血縁」によって定義されます。例えば、「セネガル語」という言葉は存在しません。実際にはウォロフ語が国全体で 90% 以上の人々に話されているだけなのです。

部族社会では「個人」と「グループ」が共存しています。個人は弱いですが、グループは強く、グループは個人を守り、個人もグループのために戦います。これは、かつての日本の戦国時代にも似ています。織田氏、武田氏、上杉氏などの部族（家）が同盟を結び、婚姻を通じて新たな関係を築いていきました。例えば、女性が別の部族の男性と結婚すると、その子供は父親の部族に属するというように。

では、現代の私たちはどうでしょうか？部族の概念は消えつつありますが、人間関係の本質は変わっていません。家族や国籍、文化の違いを超えて、人は支え合いながら生きています。私たちのつながりは、もはや血縁だけではなく、共通の価値観や経験、そして「友愛」によって築かれます。

友愛とは、ただ仲良くすることではありません。それは、お互いの違いを理解し、尊重し、受け入れることです。戦国時代の同盟のように、互いの弱さを補い合い、共に生きること。それこそが、真の「友愛」ではないでしょうか？



## 私にとって友愛とは

呉 澤宇

マザー・テレサは「愛が花開くところに、人生は栄える。」と言いました。この世界において、人と人の間の愛はまるで目に見えない絆のように、私たちを強固につないでいます。この愛は文化、人種、生活環境の制限を受けず、国際情勢や自然災害の影響も受けません。それは人類社会のあらゆる隅に貫き、私たちの共通の感情的な基盤となっています。

異なる文化圏において、愛はさまざまな形で表現されます。東洋文化は「儒家」に基づいて、他人への思いやりと寛容さを重視します。一方、西洋文化は、神の愛に基づき、すべての人間に平等に愛を与えることを求めています。これらの文化的な表現の違いにもかかわらず、愛の本質は不变であり、人々の心を温め、相互理解を促進しています。

人種の違いも、愛の力には打ち勝てません。マーティン・ルーサー・キング牧師は「私には夢がある。いつの日か、私の 4 人の幼い子供たちが、肌の色ではなく中身で判断される国で暮らすようになることだ。」と言いました。現在、平等な愛を求めるこの願いに行動で応える人が増えています。スポーツの世界では、異なる人種の選手たちが一丸となってチームを組み、勝利を目指して競い合います。このような場面は、人種を超えた友情と協力の美しさを示しています。また、多文化共生のコミュニティでは、異なる人種の人々が互いの文化を尊重し、学び合うことで、より深い絆を築いています。

生活環境の違いも、愛の伝達を妨げることはありません。都市部では、忙しい日常の中でも、人々は困っている人に手を差し伸べ、微笑みを与えます。一方、田舎では、地域の人々が互いに助け合い、温かい絆を育んでいます。これらの愛の行為は、生活環境の違いを超え、人間の美しい心を表しています。

国際情勢が複雑化し、紛争や災害が起こるときでも、愛の力は決して消えません。2020 年、新型コロナウイルスの感染爆発時には、各国の救援隊やボランティアたちが集まり、物資を提供し、被災者が困

難を乗り越える力となりました。これらの活動は、国境を越えた愛と同情の表れであり、人類が共に困難を乗り越える強さを示しています。

自然災害が襲ってきたとき、愛は特に輝きを放ちます。地震が発生したとき、世界中の救助隊やボランティアが団結して被災者の救助にあたり、物資の提供や寄付などが積極的に行われます。このような愛の表れは、人類が自然災害に立ち向かうときの強い意志と絆を証明しています。

人と人との関係は愛によって豊かになり、愛は関係を育むことで成長し続けます。愛は、アイデンティティ、地位、富に関係ない、精神的な共鳴です。精神的な統合から共同成長まで友愛の精神は絡み合います。この愛の力を大切にし、世界中の人々が互いに愛し合える社会を作り上げることが、私たちの責任です。

## 私にとって友愛とは

張 開悦

「友愛」とは、「友」は「友達」で、「愛」は「いとおしいと思う気持ち」です。そして、「友愛」というのは、心からの共感と温かい励ましです。

アリストテレスは、友愛は相手の善良さを認め、共通の善良さを追求することに基づいていると言いました。感情的なサポートを提供するだけでなく、個人の成長も促進します。友愛は、安定した社会と公共秩序の基礎です。人々が謙虚で互いに友好的であり、また社会秩序を遵守すれば、生活の中で他人が困難に直面したとき、手を差し伸べて困難の解決を助けることで世界はますます良くなるでしょう。

人と人、種族と種族、国と国の間には、この地球上に生まれたすべての存在には、まず、それぞれ異なる文化があります。東洋では、儒教が「博愛」を唱え、文明的で秩序ある人間関係を築きます。西洋では、キリスト教が「普遍的な愛」を推進し、人々の間の無私の思いや

りを強調します。名前や重点は異なりますが、友愛の本質は同じです。そして、互いに助け合い、理解し合うことが必要です。実は人ととの相互理解は簡単なことではありません。人々はそれぞれ環境や経験が異なるため、物事の見方や考え方も異なります。したがって、相互コミュニケーションが不可欠であると思います。

種族と種族の関係においては、歴史的な背景や文化的な違いが存在します。世界には多様な種族が存在し、それぞれが独自の美しさを持っています。以前は人種差別がありましたが、現代社会においては、ますます多くの人が人種を超えた愛と理解を求めています。世界にはいろいろな地域の人々が住んでおり、それぞれの食文化や芸術を互いに紹介し合うことで、地域の活力が高まっていて、友愛が育まれます。

それぞれの国が平和と友愛を重視することが大切です。国が違えば政治や経済的な立場が異なりますが、国際交流を通じて、お互いの国の文化や社会を理解し、問題を解決し合うことができます。戦争や自然災害が起きたとき、各国の救援ボランティアたちが物資を提供して、被災者を救います。このような国際協力は世界各地の友愛を深める不可欠な要素です。

ロマン・ランタンは「愛は人生の火です。愛がなければ、すべては暗闇に変わる」と言いました。この世界の中で、友愛は必要不可欠です。私たちは地球の一員として、友愛を大切にし、平和と繁栄の未来を創造する責任を持っています。人々がもっと理解と寛容を持てば、もっと愛があれば、世界はより良いところになる信じています。

## 私にとっての友愛とは

邹致远

日本語学校で大学受験に挑む私にとって、友愛とはただの友情ではなく、共に困難を乗り越え、支え合うかけがえのないものである。この環境では、母国を離れ、異なる文化の中で学びながら、受験とい

う大きな挑戦に立ち向かわなければならない。その過程で、言葉の壁や孤独感に悩むことも少なくない。しかし、共に努力する仲間がいるからこそ、困難を乗り越えられる。私にとって友愛とは、「共に学び、励まし合い、成長していく関係」であり、その中には共感と信頼という二つの要素が欠かせない。

共感、それはつまり同じ環境で支え合えること。日本語学校には、世界中から日本の大学を目指す生徒が集まっている。国籍や文化は異なっても、皆が同じ目標に向かって努力しているため、互いの気持ちを深く理解し、共感することができる。私自身、去年の 11 月に EJU 試験を受けた際、日本語の読解問題が全く解けず、大きなショックを受けた。しばらくの間、落ち込んで家に引きこもってしまった。そんなとき、一緒に勉強していた友人が突然家に訪れ、美味しい料理を振る舞ってくれた。そして、食事の途中でこう言った。

「いつまでも落ち込んでちゃダメだろう。男なら前を向いて立ち向かえ！」と。その言葉に救われ、私は諦めずに努力を続けることができた。このように、友愛とは、お互いの苦しみを理解し、支え合うことで深まっていくものだと感じた。

友愛には、揺るぎない信頼関係が必要だ。特に受験勉強は、時に孤独でつらいものになる。しかし、信頼できる仲間がいれば、一人で抱え込まずに済む。私は、ある友人との関係を通じて、このことを強く実感した。日本語の面接練習をしていたとき、私は緊張してうまく話せなかった。そんな私に対し、友人は「大丈夫、もう一回やってみよう」と、何度も練習に付き合い、私の言動や所作の不適切な点なども指摘してくれた。彼は私を笑うこともなく、失敗しても励まし続けてくれた。そのおかげで、私は面接への自信をつけることができた。私もまた、彼が傷ついたとき、彼を鎌倉の海辺に連れて行き、そこで一晩海を見ながら話し合って彼を慰めてあげた。このような関係こそが、私の考える友愛の本質だと思う。

これらの経験を通じて、私は友愛の本当の価値を深く実感した。互いに支え合い、共に努力することで、人は困難を乗り越え、より強く成長できるのだと学んだ。これからも友愛の絆を大切にしながら、志望大学合格という夢に向かって、一步ずつ着実に歩んでいきたい。

## 友愛とは

张思衡

私が日本へ留学に来たばかりのとき、私は故郷の文化とは全く異なる環境に置かれたと感じました。中国と日本の文化の違いは、生活の細部から考え方まで、いたるところに見られますが、その違いの中に、友情の力を深く感じます。

私が初めて学校に入学した頃は、日本の複雑なゴミの分別のルールを漠然としか理解していなかったため、いつも混乱していたことを覚えています。あるとき、私はゴミ箱の前に立ち手に持ったゴミを見て、これらをどのごみ箱に捨てればいいかと困惑していました。そんな時、日本人の隣人が通りかかりました。彼は嫌悪感を一切見せず、さまざまな種類のゴミの分類基準を辛抱強く説明し、正しい処分方法を自ら実演してくれました。その瞬間、彼の顔に浮かんだ温かい笑顔が、私が最初に到着したときに感じた不安を払拭してくれました。この一見すると小さな手助けは、文化の違いという文脈においては特に貴重です。

文化の違いは教室に反映されることも多いです。学校における日本の学生の厳しさや時間厳守は、私が慣れているものとは違います。しかし、授業の内容がわからず戸惑ったときはいつでも、日本人のクラスメイトが率先して私の質問に答えてくれました。こうした小さなことから、友情は同じ文化的背景を持つ人々の間だけに存在するのではないことに徐々に気づきました。

私の考えでは、友情とは文化の違いを超えた理解と寛容さです。日本の文化では礼儀作法が非常に重視され、多くの場面で厳しいルールがありますが、私は比較的カジュアルな文化環境から来ています。しかし、ここでは、人々は私との「違い」を理由に私を拒絶しませんでした。それどころか、彼らは私を友好的な態度で受け入れ、様々なことを教えてくれました。この包括性により、私は自分自身の特徴を保ちながら地域の文化を尊重することができます。

友情とは、国籍や文化に関係なく、困っている人に手を差し伸べること

とでもあります。日々の生活のことや勉強での困難など、日本の友人たちの助けのおかげで、外国にいても故郷の温かさを感じることができました。文化の違いを超えた友情は、私の留学生活を豊かにしてくれているだけでなく、文化の違いにかかわらず、人間の本質である優しさと友情は同じであることを理解させてくれました。この経験から私は今後、この友情を継承し、異国之地でより多くの人々を温かく迎え、異なる文化間の交流と融合を促進していくかなければならないと学びました。





左の *u* (ユー) と右の *i* (アイ) でユーアイ (友愛) です。これは  
英語のユー (Y o u あなた) とアイ (I 私) に通じ、全体の形は、  
We (私たち) の *w* であり World (世界) の *w* です。  
あなたと私、私たちで友愛の世界を目指しましょう！

公益財団法人 友 愛  
<https://yuai-love.com>